

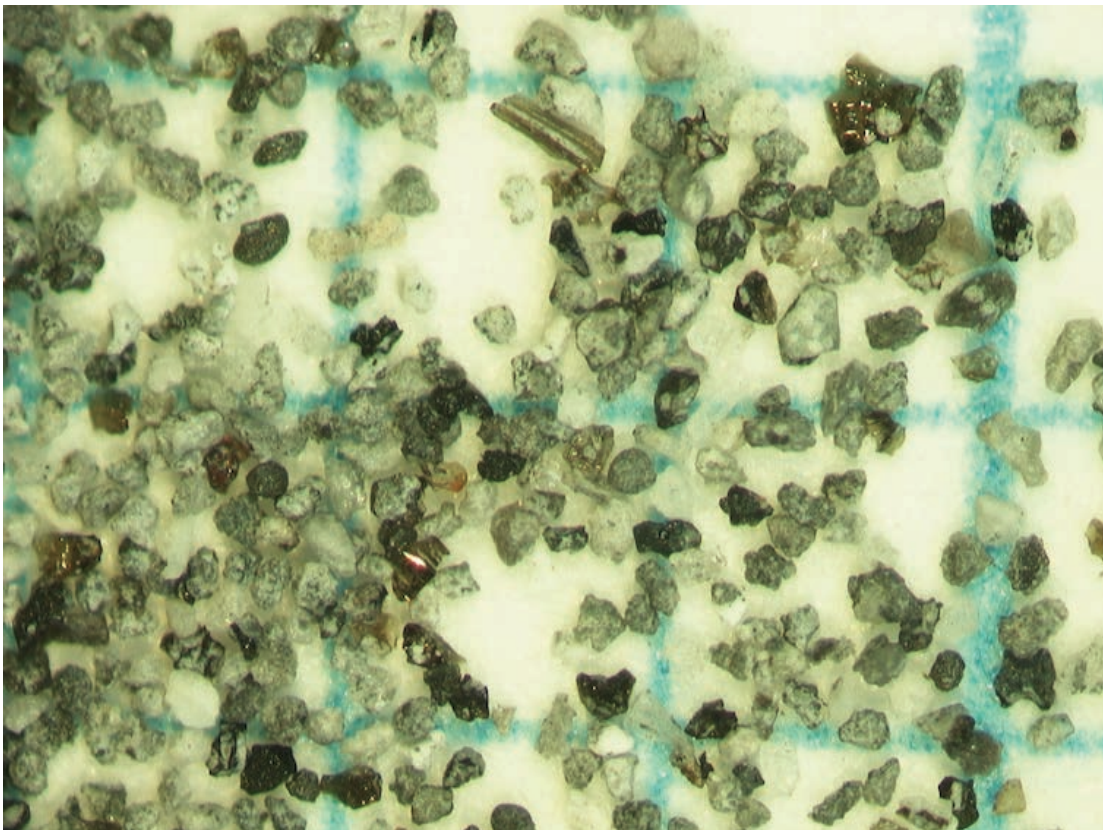
阿蘇 2016 年 10 月 7, 8 日噴火の噴出物, その 2 (10 月 9 日調査)

(長谷中利昭・理学部, 田島靖久・日本工営, 稲倉寛仁・西日本技術開発)

前日に引き続き, 阿蘇中岳 10 月 7, 8 日噴火の噴出物の調査を行った. なお前日 8 日午後~本今朝にはかなりの量の降雨があり, その後は晴天であった.

(1) いこいの村近くのセブンイレブンの駐車場

前日, 一面の泥であった駐車場の火山灰が午後の日照で乾いていた. 亀甲状の割れ目や, 波打った箇所があった. 粒度が揃っている場所から試料を採集した. 実体鏡で観察した結果, 変質した岩片, 鉱物が 50%以上あった反面, 褐色ガラス, 黒色ガラスが 20%近くあった. 他は新鮮な岩片, 斜長石などである. 微細発泡した岩片が少量あった. 碁盤の目は 1mm 間隔である (鑑定: 田島).



(2) 阿蘇青少年交流の家



前日立ち寄った交流の家を再訪した。コンクリート道路の上にある噴石を持ち上げた時に細粒火山灰の「座布団」が底に着いているものが多くあった。噴石が動いていないこと、火山灰降灰時に着地した可能性が高いことが推測できた。周囲に細粒火山灰がないことから、前夜の豪雨で火山灰の細粒部の多くが洗い流されたものと思われた。木の板上に1 cm 大の火山灰泥の雨滴跡がいくつも残っていた。

(3) 仙酔峡への道



途中何箇所か崖崩れによって道路の一部が塞がれている箇所があり、仙酔峡北の大曲りの箇所で、それ以上は通行不能になっていた。中岳から約 3km の地点になる路上の噴石を 4.5km の交流の家のもものと比べると、頻度もサイズも小さいことが驚きである。火山豆石が着地時に粉碎したものと、火山礫が着地時に破碎したものの 2 種類があった。

二日間の調査をまとめると今回の中岳噴火の 3km 以遠の噴出物には

- a) 火山礫
- b) 雨滴状の火山灰
- c) 泥沼状に溜まった火山灰

の 3 種類が認められた。これらの成因関係、噴火履歴との対応を考えるのが今後の課題だと考える。